

「シマクトゥバ」とは？

1. シマクトゥバは故郷の言葉

「シマクトゥバ」は今ではかなりの方々に認知されています。

2006年に沖縄県議会では、しまくとぅばの普及、継承を目的に、毎年9月18日を「しまくとぅばの日」と制定しました。

首里方言の語彙を収録した『沖縄語辞典』（1963年刊行）では、「シマ」を次のように定義しています。①村里。部落。②故郷。出身の部落。③領地。知行地。④島。海に囲まれた島。シマは、「集落」や「故郷」を表す名詞で、海に囲まれた「島」は4番目の意味です。海に囲まれた「島」あるいは「離島」を表す単語には、「ハナリ」という言葉があります。

シマクトゥバとは「故郷(シマ)のことば」を表します。県議会は沖縄県民にそれぞれの「故郷のことば(シマクトゥバ)」を大切にしようと訴えたのです。

2. 県外・海外からも注目されるシマクトゥバ

その後2009年にユネスコが全世界の7千前後の言語のうち約2500の言語を消滅危機言語として発表しました。その中には東京都の八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語などが含まれています。しかし、実際には多くの本土方言も危機的な状況にあります。

文化庁では危機的な状況にある言語・方言に関する調査結果や最新の調査研究成果、それを抱える各地域の取組状況等について、国民に周知し、共に考えることを通して、その価値や保存・継承の取組への理解を深める場を設けることで、その状況改善を図ることを目的に、「危機的な状況にある言語・方言サミット」を毎年開催しており、本年(2025)は10月25日(土)・26日(日)に石垣市で開かれます。(文化庁のHP参照)

3. シマごとに違うシマクトゥバ

沖縄本島北部・中部・宮古・八重山・与那国がそれぞれ大きく言葉がちがう事は多くの人が理解していますが、実際には集落ごとに個性的な言葉が話されており、アクセントやイントネーションや単語に違いが見られます。道一つ隔てると言葉が変わると言われるほど差があります。

例えば、「兄」ということばを例にとると次のとおりです。

※()は集落名を表します。

【兄】 アイー(美里)、アイヤー(真栄里、喜屋武、佐敷、他)、アイヨー(奥武)、アイヒヤー(田場、具志川)、アッピー(与根、東風平、辺野古、屋部、高志保、他)、アフィー(知念、津嘉山、与座、座喜味、大山、首里平民、他)、アヒー(石川、座波、伊舎)

堂、他)、アビー(登川)、ヤカー(久志)、ヤクミー(数久田)、アンメー(奥)、ミーミー(源河)、ヤンミー(辺戸、辺土名、喜如嘉、根路銘)、ヤーヤー(幸喜)、ヤッチー(首里土族)
(以上 狩俣繁久氏のレポート引用)

4. ウチナーグチとは

ウチナーグチとは、沖縄本島およびその周辺離島で話される言葉の総称です。ウチナーグチの中には沖縄芝居の中で使われることばや組踊や琉歌のことばも含まれますが、芝居や組踊、琉歌のことばは故郷(シマ)クトゥバと呼ぶことはできません。

5. シマクトゥバがなくなると沖縄の文化が失われる

シマクトゥバは、沖縄の文化の基層をなすものです。シマクトゥバには地域の人々が自然とどのように関わったり認識したか、どのような社会生活を送って暮らしてきたかが刻印されています。シマクトゥバにはそれが話されてきた土地の文化や歴史が反映されているのです。シマクトゥバが失われるということは、連綿と続いてきた地域文化の断絶を意味します。

沖縄の桜はいつ咲くのでしょうか。「サクラ咲いたら一年生」ではないのです。そういった私達の周りにある自然をはじめとする、祖先から受け継がれてきた、沖縄にしかない文化をシマクトゥバとともに受け継いでいかなければなりません。

(参考:狩俣繁久氏(琉大名誉教授)の 2023/7/13 の講演会レジュメ)



E ラーニング シマクトゥバゲーム



しまくとうば普及センターでは、講師養成講座の認定者や、普及団体、言語学者などが登録されている人材バンクから、小中学校の授業や教師向けの研修会などを実施しています。
お気軽にご相談ください。

しまくとうば普及センター
那覇市泉崎 1-2-2 県庁 9 階
しまくとうば普及推進室内
TEL. 098-988-0411



しまくとうばナビ